

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																		
大阪バイオメディカル専門学校	平成16年03月30日	大塚一幸	〒542-0082 大阪府大阪市中央区島之内1-14-30 (電話) 06-6251-8103																		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																		
学校法人佐藤学園	平成16年03月30日	細川智吉	〒542-0082 大阪府大阪市中央区島之内1-14-30 (電話) 06-6251-8103																		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																	
文化・教養	文化・教養専門課程	バイオ学科	平成23年12月22日	-																	
学科の目的	専門的な知識を身に付けると同時に、生活態度や身だしなみ、接客マナーなどの人間力も身につけた医療事務のスペシャリストを育成する。																				
認定年月日	平成〇年〇月〇日																				
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技															
3年	1700	1230	0	3210	0	0															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																
120人	105人	1人	5人	5人	10人																
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業出席点および学期末試験ならびに実習成果等の学習																	
長期休み	■春季:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～9月7日 ■冬季:12月23日～1月7日 ■学年末:3月1日～3月31日	卒業・進級条件		各学年終了時において、講義科目、実験・実習科目ごとに規定された以上の単位を修得した上で、出席すべき授業日数及び各講義科目時数のそれぞれ3分の2以上出席していること。																	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 毎学期ごとに個別相談を行い学生個人の意思を確認するとともに、将来に向けた指導を行う。	課外活動		■課外活動の種類 各種ボランティア、環境活動、各種学会への参加等、積極的に奨励している。 ■サークル活動: 有																	
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 研究受託機関・クリニック・研究所等		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上級バイオ技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>安研協認定技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	上級バイオ技術者認定試験	③	14	2	安研協認定技術者認定試験	③	15	4					
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
上級バイオ技術者認定試験	③	14	2																		
安研協認定技術者認定試験	③	15	4																		
■就職指導内容 学生個人の進路希望を把握した上で、学内での企業説明会、ハローワークの活用などを推奨するとともに、面接指導や書類作成指導などを行う		■卒業者数: 26人		■就職希望者数: 25人																	
■就職希望者数: 25人		■就職者数: 25人		■就職率: 100%																	
■卒業者に占める就職者の割合: 96%		■その他・進学者数: 0人		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																	
(平成30年度卒業生に関する平成31年5月1日時点の情報)		■中途退学者: 6名		■中退率: 6%																	
■中途退学の原因 ・経済的理由、学業不振、進路変更等による		■中退防止・中退者支援のための取組 定期会議における担任から学生状況の報告により情報共有を行っている。退学に繋がりにような学生、状況に応じて、教職員全体として問題解決を図るとともに、スクールカウンセリング等を活用することで、退学防止を図っている。																			
■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※佐藤学園奨学金制度を設け、毎年4月に進級した学生の中から、成績が優秀且つ他の学生の模範となる者に対して、奨学金を恵与します。		■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																			
■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科のホームページURL		https://www.obm.ac.jp/																			

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業現場、業界団体等で求められる知識、技術との乖離がないか、また将来に向けて求められる知識、技術等を検証するため、本校校長の下に教育課程編成委員会を設置。年2回委員会を開催し、業界動向、意見を聴取し、本校カリキュラム、実習等授業内容の改善等に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校校長の下に教育課程編成委員会を設置し、委員会開催内容について校長、推薦学科主任講師、担当講師がカリキュラム検討会議で審議を行い、校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山内 弘	安全性試験受託研究機関協議会	平成30年4月1日～令和2年3月31日	①
浅野 裕三	株式会社ボゾ・リサーチセンター	平成30年4月1日～令和2年3月31日	③
待田 裕美	株式会社総合水研究所	平成30年4月1日～令和2年3月31日	③
大塚 一幸	大阪バイオメディカル専門学校 校長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
清水 涼子	大阪バイオメディカル専門学校バイオ学科 主任講師	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
森 健一	大阪バイオメディカル専門学校教育部マネージャー	平成30年4月1日～令和2年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、2月)

(開催日時(実績))

第7回 2019年3月 7日 11:00～12:30

第8回 2019年9月12日 13:00～14:00

第9回 令和2年2月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

学生の基礎学力の低下が目立つため、リメディアル講義を取り入れていることは、大学等でも行っている取り組みであるので、評価できる。就職対策として、SPI対策を導入してはどうか?との意見をいただいたため、2019年度よりゼミ内での実施を行うこととした。実績が上がれば、カリキュラムとして、SPI対策講義を履修科目とするか検討を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

推薦学科で指導する技術が実際の現場で活用できるのか。また、実習・演習等で学ぶ知識、技術はあくまで基本的なものであるため、最前線の現場で各企業、団体等が重要視する知識、技術の習得と乖離があることは否めない。そこで、基本・最新を問わず各企業、団体等が重要視している知識、技術の習得を目的とし、連携企業、団体等との協力の下、校内および校外における実習・演習等を実施する。また、社会人にとって必要不可欠な人間力や礼儀などを身につける機会としても重要な位置づけにある。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等で必要とされる知識・技術の習得および社会人として必要不可欠な人間力や礼儀等を見につける。また、実際の現場における業務の流れ、授業、実習・演習等で身につけた基本知識をどの程度活用できるかを学生自身が把握し、実習終了後の復習等でさらなる実践力を身につける。実習評価については、指導教官の指示の下、機材操作的確さ、プロトコルの把握等を評価対象とする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
環境化学実習	環境分析に必要な機材の利用方法や環境分析手法を実践的に学ぶ	株式会社総合水研究所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修等は、本校教員に対して、現在就いている職、または将来就くことが予測される職にかかる職務の遂行に必要な知識、技能等を習得させることにより、その職務の遂行に必要な教職員の能力、資質等の向上を図ることを目的とし、大阪バイオメディカル専門学校「教職員研修規程」を定め、教授方法等の研修を各教職員が計画的に受講するよう定める。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本薬物動態学会 第34回年会つくば」(連携企業等: 日本薬物動態学会)

期間: 2019年12月9日(月)~12日(木) 対象: バイオ学科常勤講師

内容: 薬物吸収評価等に関する理解を深めるとともに、最新の薬物動態に関する知見を深めることにより、学生指導、実習指導等に有益な情報を獲得し、活用する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「中堅教員研修会」(連携企業等: 一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団)

期間: 令和元年8月8日(木)~9日(金) 対象: 大阪バイオメディカル専門学校常勤講師

内容: 中堅教員として、自らに課される仕事の理解を深めるとともに、各自のマネジメントスキルの課題を認識することで、学生指導、同僚とのコミュニケーション等に活用する。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本薬物動態学会 第35回年会」(連携企業等: 日本薬物動態学会)

期間: 令和2年12月予定 対象: バイオ学科常勤講師

内容: 最新の薬物動態に関する知見を深め、かつバイオ関連の最新情報を得ることにより、学生指導、実習指導等に活用する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「中堅教員研修会」(連携企業等: 一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団)

期間: 令和2年8月予定 対象: 大阪バイオメディカル専門学校常勤講師

内容: 中堅教員として、自らに課される仕事の理解を深めるとともに、各自のマネジメントスキルの課題を認識することで、学生指導、同僚とのコミュニケーション等に活用する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業等の学校関係者への情報提供を行い、フィードバックをいただくことで、より実社会のニーズに応じた学生指導を図るため、各種情報提供を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・教育理念を定められているか。・学校の特色が明確であるか。等
(2) 学校運営	・運営方針は定められているか。・意思決定システムは確立されているか。等
(3) 教育活動	・各学科の教育目標、育成人物像は、その学科に対応する業界人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか。・カリキュラムは体系的に編成されているか。等
(4) 学修成果	・資格取得率の向上が図られている。・退学率の低減が図られているか。等
(5) 学生支援	・学生相談に関する体制が整備され、有効に機能しているか。等
(6) 教育環境	・施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。等
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集は適切に行われているか。・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。等
(8) 財務	・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。・予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。等
(9) 法令等の遵守	・法令、設置基準等の順守と適切は運営がなされているか。・個人情報に関し、その保護のための対策が採られているか。等
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設や活用した社会貢献を行っているか。等
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会において、毎年一定数の退学者が生じており、抑制を図る必要性があるのではないかとのご指摘を受け、学生相談室を設置し、また学生からの相談のみならず保護者からの相談も受けることができるよう、平日及び土曜日にも相談時間を設け、教員以外にも相談できる環境を整備している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
浅野 裕三	株式会社ボゾ・リサーチセンター	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
待田 裕美	株式会社総合水研究所	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
飯野 修芳	大阪府中央区地域振興会	2019年4月1日～2021年3月31日	地域住民
森岡 聖子	主婦	2019年4月1日～2021年3月31日	卒業生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページに毎年夏頃掲載)

URL: <https://www.obm.ac.jp/>

公表時期: 令和元年8月10日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者への情報提供を行い、関係者よりフィードバックをいただくことで、より実社会のニーズに応じた学生指導を図るため、各種情報提供を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・学校概要
(2)各学科等の教育	学科紹介、施設・設備
(3)教職員	学科長紹介、obmの先生たち
(4)キャリア教育・実践的職業教育	資格サポートシステム、就職サポートシステム、インターンシップ
(5)様々な教育活動・教育環境	学科紹介、施設・設備
(6)学生の生活支援	学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費・各種制度、特待生制度
(8)学校の財務	財務状況
(9)学校評価	学校自己評価
(10)国際連携の状況	0
(11)その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.obm.ac.jp/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程医療事務総合学科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択	自主選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			SHゼミ	組織内外から「信頼」される社会人を目指して聞く力・考える力・理解する力・協力する力などの『社会人基礎力』を身につけることを目指す。	1 2 3 通	1 8 0	1 2	○			○		○		
○			就職対策	自己分析、企業研究からはじめ、希望する就職先の選定を行い、準備を行う。	3 通	1 2 0	8	○			○		○		
○			バイオ化学総論	化学総合資料を中心に、生体を構成する無機化学・有機化学の基礎、及び溶液の濃度について学び、実習に関連した化学に関する基礎知識を身につける。	2 前	3 0	2	○			○		○		
○			基礎バイオテクノロジー	バイオテクノロジー、生化学、微生物学、分子生物学、遺伝子工学の分野を網羅した中級バイオ技術者認定試験合格を目指す。	3 通	9 0	6	○			○		○		
○			応用バイオテクノロジー	バイオ技術分野の基礎(核酸、タンパク質、機器等)から、応用(微生物・動物・植物バイオテクノロジー)に至る幅広い分野を網羅した上級バイオ技術者認定試験の合格を目指す。	3 通	9 0	6	○			○		○		
○			生物学	生物学総合資料を中心に、ヒトを含めた生命体の構造と働きに焦点をあてて学び、実習に関連した生物学に関する基礎知識を身につける。	1 前	3 0	2	○			○			○	
○			基礎化学	化学総合資料を中心に、生体を構成する無機化学・有機化学の基礎、及び溶液の濃度について学び、実習に関連した化学に関する基礎知識を身につける。	1 後	3 0	2	○			○			○	
○			生化学	生物を構成する細胞および組織の構造とそれを構成する基本的物質の生化学的性質、及び生体内における代謝、調節機能や恒常性のメカニズムについて学ぶことを目的とする。	2 前	3 0	2	○			○			○	
○			環境化学	複雑・多様化する環境問題を幅広く体系的に身に付け、環境社会検定試験(eco検定)合格レベルの環境問題に関する理解を主な目的とする。	1 前	3 0	2	○			○			○	
○			安全化学	実習を行うにあたって、実習機器の使用方法を誤るとどういった事故が生じるか、安全性に配慮して実習を行うことができるよう、安全性に関する理解を主な目的とする。	1 後	3 0	2	○			○			○	
○			QC検定 I	品質管理に関する意識、能力、改善能力を身につけるため品質管理検定(QC検定)4級合格レベルの品質管理に関する理解を主な目的とする。	1 後	3 0	2	○			○		○		

○		生命化学概論	バイオ技術分野の基礎を踏まえ、生命化学に関する概要を学び、技術者として考え方の基礎を理解することを学ぶ。	1 後・2 前	6 0	4	○			○		○		
○		病態学	様々な病態について学び、それらが医薬品開発のプロセスにどのように利用、応用されているか理解する。	1 後・2 前	6 0	4	○			○		○		
○		微生物学	微生物の基礎的事項と代謝経路について解説し、微生物そのものについて理解するとともに、我々の生活と微生物との関わりについて、基本的理解を得ることを主な目的とする。	2 前	3 0	2	○			○		○		
○		遺伝子工学	遺伝子操作などのバイオ技術における基礎的理論と実験方法について学び、化学品生産などへの応用を理解することを主な目的とする。	2 後	3 0	2	○			○		○		
○		生物工学	細胞、遺伝子、免疫系、培養、精製など生物工学の基礎および、バイオテクノロジー応用医薬品などバイオメディカル分野への応用について理解を得ることを主な目的とする。	2 後	3 0	2	○			○		○		
○		英語 I	生物学総合資料、化学総合資料を中心に実習やそれに関わる機器類を含めた用語、英単語の解説を行い、基本的用語の理解を得ることを主な目的とする。	1 通	6 0	4	○			○		○		
○		英語 II	実験に用いる試薬、機器類、キットに添付されている資料をテキストとし、その日本語訳と操作方法の理解、それを元としたプロトコル作成を主な目的とする。	2 通	6 0	4	○			○		○		
○		分子生物学	バイオ技術者検定試験中級レベルの分子生物学・遺伝子工学の理解を主な目的とする。	2 前	3 0	2	○			○		○		
○		生物学実習	実験動物の保定、投与、注射、解剖技術等の技能習得に加え、解剖実験動物取り扱い、動物愛護、倫理に関する知識の修得を主な目的とする。	1 通	9 0	3				○	○	○		
○		微生物学実習	身近な落下細菌から微生物の単離、培地作製、培養、染色、観察などを行い、微生物の基本操作について学ぶとともにその技法について習得することを目的とする。	1 通	9 0	3				○	○	○		
○		分析化学実習 (基礎)	基本的な実験機器の操作や技術、実験ノート書き方や実験データの解析法を学び、報告書を作成することを主な目的とする。	1 通	9 0	3				○	○	○		
○		細胞培養実習	細胞について学び、細胞数算定や染色、標本作成、観察像スケッチを行うことで、細胞培養に関連した機器の使用法、技法について理解し、習得することを主な目的とする。	2 通	9 0	3				○	○	○		
○		動物実験実習	実験動物の保定、投与、注射、解剖技術等の技能習得に加え、解剖実験動物取り扱い、動物愛護、倫理に関する知識の修得を主な目的とする。	2 通	9 0	3				○	○	○		
○		免疫学実習	抗体の性質、機能について理解し、ELISA法をはじめとした免疫学的測定実習を通して、免疫学についての包括的な知識の理解や技術の習得、及び論文の作成を行う。	2 通	9 0	3				○	○	○		
○		化学装置実習	緩衝液、サンプルの調製をはじめ、HPLC機器の原理、利用法、技法について学ぶ。実践的にサンプルを測定行うことで、分析化学的手法の基本操作の習得を主な目的とする。	1 通	2 7 0	3				○	○	○		

	○	分析化学実習	タンパク質の精製、確認、解析を通じて、タンパク質の性質と実験原理についての理解や技法の習得、報告書作成を主な目的とする。	1通	270	3				○	○	○			
	○	分析化学実習	PCR法や制限酵素処理法など基本的な遺伝子工学実習を通して、分子遺伝学に関連する分野についての包括的な知識の理解や技法の習得、報告書作成を主な目的とする。	2通	90	3				○	○	○			
	○	環境化学実習	WEI試験・水質分析など基本的な環境基準の測定を通して、環境科学に関連する分野について、包括的な知識の理解や技法の習得、報告書の作成などを主な目的とする。	2通	270	3				○	○	○			○
	○	課題研究(化学Ⅰ)	各自で研究テーマを定め、遂行するための計画作成、実験技術の研鑽、得られた結果から科学的に解析する力を体得する。加えて論文を執筆・提出し、研究発表を行う。	3通	240	16				○	○	○			
	○	課題研究(化学Ⅱ・LS)	各自で研究テーマを定め、遂行するための計画作成、実験技術の研鑽、得られた結果から科学的に解析する力を体得する。加えて論文を執筆・提出し、研究発表を行う。	3通	180	12				○	○	○			
	○	課題研究(化学Ⅱ・ES)	各自で研究テーマを定め、遂行するための計画作成、実験技術の研鑽、得られた結果から科学的に解析する力を体得する。加えて論文を執筆・提出し、研究発表を行う。	3通	180	12				○	○	○			
	○	インターンシップ実習Ⅰ(LS)	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3通	90	3				○	○	○			
	○	インターンシップ実習Ⅱ(ES)	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3通	90	3				○	○	○			
	○	学内インターンシップⅠ	長期休暇期間中の実験、実習を通じて実践力を高め、研究者としての実践力を身につける。	3通	270	9				○	○	○			
	○	学内インターンシップⅡ	長期休暇期間中の実験、実習を通じて実践力を高め、研究者としての実践力を身につける。	3通	270	9				○	○	○			
	○	インターンシップA	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3通	90	3				○	○	○			
	○	インターンシップB	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3通	90	3				○	○	○			
	○	インターンシップC	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3通	90	3				○	○	○			
	○	インターンシップD	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3通	90	3				○	○	○			
	○	インターンシップE	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3通	90	3				○	○	○			

		○ 就職指導	就職希望先のエントリーを始め、履歴書、実習報告書の作成、面接の模擬練習を行い、志望する企業の内定を目指す。	2 通・ 3 通	1 8 0	1 2	○			○		○		
合計			48科目	4440単位時間 (209単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
定期試験、提出課題、出席点を加味した成績評価において、「C」以上の科目の履修合計時間が年間850単位時間以上、3年間の累計で2550単位時間以上ある		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。